

## 「茶道入門～通訳案内士の為の裏千家流茶道の基礎知識」

研修終了報告 第一支部運営委員会

6月6日（木）12:30-15:30 第一支部「茶道研修」が高田馬場の茶道会館にて実施され、会員18名、非会員1名、委員2名の合計21名が参加しました。（講師は裏千家教授、みやび流和装道教授で東京オリンピック関連行事や各メディアでもご活躍の北見宗雅先生）

高田馬場の茶道会館は、高村光雲の弟子で建築家でもあった前理事長の北見宗国氏の設計によるもので（昭和25年に完成）文化財も含む大変由緒ある立派な建物です。



前半の講義は椅子に座っての座学で、「一座建立」「一期一会」といった茶の湯から生まれた美しい言葉の意味や、「茶道とは」と題して八項目の様々な観点から茶の湯について大変わかりやすくご説明くださいました。「茶の心」の項では「茶の湯とはただ湯を沸かし茶を点てて飲むばかりなることと知るべし」という利休道歌を引用され、「当たり前のことを当たり前でできるようになる」ことの難しさ、奥の深さに改めて感じ入りました。この他四規（和敬清寂）や利休七則についても詳しくご講義くださいました。また、「五感で楽しむ」項では視覚は目で見て楽しむだけでなく心で相手の気持ちを見ること、聴覚では釜の音の変化「釜六音」を感じながら楽しむなど先生の言葉の一言一言が深く心に刻み込まれました。

その後、休憩をはさんで実際にお茶室に入り、炉の時期（11月～4月）と風炉の時期（5月～10月）の室礼の違いや決まりなどをわかりやすくご説明くださいました。続いてお弟子さんたちによる風炉の濃茶席の実際の様子を拝見いたしました。厳粛な雰囲気の中、皆真剣に見入ってしまうほど引き込まれました。先生のご配慮で椅子での参加が可能でしたので正座がお辛い方でも安心してご参加いただけました。その後は参加者が交互に薄茶を点て半東（お手伝い役）、客のどちらも経験し双方の立場から実際の動きを学んだり、真行草のお辞儀の仕方などを練習したりしました。また、水屋仕事など実際には見られない裏側のお仕事も見せて頂き大変貴重な機会となりました。また、ジョークを織り交ぜながら初心者にも大変わかりやすくなる楽しい先生のご講義だけでなく、気さくでざっくばらんなお人柄と着物のモデルをなさるほどの美しい着こなし、所作にも皆魅了された三時間でした。終わった後「歴史ある見事なお茶室で楽しく実践的な研修に参加できて本当に素晴らしかった」と参加者の皆さんが口々におっしゃっていたのが印象的でした。

